

環の郷プロジェクト第2章

水と緑、人の行き交う高島市の実現を目指して

平成18年度 高島市施政方針（要旨）

合併して1年

合併後調整するとして52の項目も、一定の目処が立ち、市民の参加を得て各種審議会や諮問会議などもそれぞれが意気新たにスタート致しました。

また、高島市総合計画の策定委員会や人権施策推進懇話会、文化的景観候補地調査委員会、地域福祉計画、男女共同参画推進計画など、それぞれ素晴らしい委員と助言者を得て展開中であり、平成18年度に一定の結果を得る予定であります。

財政問題については、諮問会議を設置し、市民の立場の率直な声を聞かせて頂きながら、「高島市財政再建計画」を練り、「構想日本」の提唱する事業仕分けを115項目に導入して事務・事業の見直しの機会を持つことが出来ました。これらを踏まえ、平成18年度予算には106項目にその気づきを反映させ、事業費ベースで21億6,530万円の削減を致しました。

しかし、合併協議の時代には予測し得なかった変化により、

行政制度の変革

● 本当に必要なサービスと、「あつたらいいな、出来たら欲しいな」のウォンツを切り分け、本当に必要な行政サービスを市民の皆さんと議論して参ります。

● 公の418施設は、利用に伴う維持管理費分を年間の利用実績に基づき精査し、一定の周知期間をおき、利用者、受益者の皆さんに大きな負担にならない配慮を念頭に、負担をお願いしていきます。

● 公共施設は絶対数を減らすために、機能移転や統合、解体等の原案を検討していきます。

エコロジー×エコノミー 作戦と省エネキャンペーン

● 「省減量」と「省エネ」は家計における無駄な出費を抑え、結果的に可処分所得を増やす効果があります。市の「省減理経費（年間約13億円）の削減にもつながります。

● 日本が持っていた「モットナイ」の精神を肯定的に実践し、人と人、人と自然の豊かな関係を織り成す「環の郷」の実現をあらゆるチャンネルで市民に呼びかけ実践に結びつけていきます。

合併合意の見直しをしなければならぬ分野も出てきています。

高島市は、持続可能を希求する現代社会において、人が自然の一部として共生の環をなす地域と注目されています。つまり、征服、略奪でない農的な繋がりを背景にして永続的に持続していける姿に世界が注目しているのです。このことを私たちがもっと上手に理解し、誇りに思い、積極的に肯定していく必要があります。

戦争から61年。先人から託された願いを背中にしよって、この時代に生きていく喜びを胸に抱き、生活の基盤を確かなものにする努力を怠らず、お金に換算出来ない豊かさを見失うことなく、自治の志高い高島を創って参りましょう。

みんなが日々の勤めを果たし、高島市を支えていることにお互いが敬意を払い、市民みんなが営業マン、高島DNA保持者全てが観光大使となって、高島を育てて参りましょう。

● 廃食油の100%回収を目標にし、石鹸やBDFに再生し、100%活用を目指します。また、省エネルギーや利用効率向上の取り組みを市民挙げて実行出来るよう、「省エネ長者」キャンペーンを実施します。

● 菜の花の作付け、活用をはじめ、木質エネルギーの利活用などをより進めるため、国のバイオマスタウン構想を視野に入れ、全国の事例と連携してこの分野を育てていきます。

● 市民環境部の環境部門を産業経済部（産業循環政策部）の所屬とし、積極型組織に変更することで、自然エネルギーの活用なども含め、環境と産業の一体化に取り組みます。

※BDF：バイオディーゼルフユエル（植物から作られたディーゼルエンジン用の燃料）

自立と自給

● 食糧・エネルギー・子育て・介護の自給力向上を目指し、自立・自律を心柱とした施策を進めます。

● 発芽技術と雑穀の融合を研究し、農の自立に向けた一助となるよう商品化を模索します。

※本稿は、3月定例議会において海東市長が提案した新年度施政方針を要約して、一部補足・追加したものです。施政方針の全文は、市のホームページ（17市長室）でご覧いただけます。

郷土を守る

一次産業の支援・再生

● 高島の農業を守ることは、環境も景観も守ることであり、観光資源を磨くことです。「農ある高島」では、若者がチャレンジする農林漁業を目指すと共に、団塊の世代の就農などにも視野を広げ、攻守ある高島農政と林業・漁業政策を現場と相携えて展開します。

● 県で琵琶湖森林づくり県民税が実施される機会を高島の林業再生のチャンスに出来るよう体制を強化し生業再生に取り組みます。

● 対策型行政から政策型の行政を目指し、地域再生マネージャーと協働で、高島市に眠る資源を発掘し、生業として再生することや、自然エネルギーの利用、邪魔物を資源に変える雪や有害鳥獣の利活用をテーマに未開拓の分野に挑戦していきます。

● 菜の花やそば栽培をエコツーリズムと連携させられるよう、旧町村域を越えて取り組みを広げます。

● 地域再生マネージャー事業の取り組みとして、環境こだわりのレベルの高い高島ブランドを目指すとともに、生物の多様性を環境貢献農業の指標とするための研究を行います。

安心の医療、救急・救命の充実

● 高島病院の建設、診療科のあり方や、1次医療と2次医療、3次医療の役割分担、訪問看護や病床数の適正規模等をよく検討し、医療懇談会にも意見を求め、具体的な目標を明確にし安心の医療環境づくりに努めます。

● 小児救急や三次医療のあり方等も含め、県や後方医療機関と密接に連携していきます。

● 高島病院の公務員体質を脱却し、経営的にも改善するため、民間の経営ノウハウや指定管理者制度の導入も視野に入れ、適切な方法を検討します。